

(別紙3)

内部質保証シート（中期経営計画）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する
Z	完了し平常として安定継続 又は 計画的見直しにより実施見送り

2025年度の実行方針および重点目標（学長／内部質保証推進委員会）

- ① 学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化を図るため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された知識・技能・態度等の学習成果の可視化にとどまらず、その具体化と継続的な改善に取り組む。
- ② 内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。
- ③ 内部質保証シートと自己点検・評価報告書の一元化を図る。
- ④ 内部質保証の標準的スケジュールに改善等を行い、PDCAサイクルの円滑化を図る。
- ⑤ 昨年度に実施した自己点検・評価により顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択して課題解決を図る。
- ⑥ 大学全体の取り組みを全教職員が把握できるよう、情報共有の方法を工夫する。

重点計画の責任者 (統括部署等)	関連委員会	責任者	自己点検・評価 (Check)			改善計画・アクションプラン (Plan)			計画の実行状況 (Do)			実行状況の評価 (Check)			
			評価	中期計画 カテゴリー	事業計画/概括	改善課題/現状値 (Action)	課題・改善目標 (KPI/KGI)	期 限	方法・手順	内部質保証推進組織による所見 または提言、助言、指示等	具体的な実行状況 (結果)	実行の成果 (振り返り)	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況
庶務部		杉谷	Z	教育	カリキュラム改革に向けたタスクフォースの設置	特になし。 ※スポーツ科学部カリキュラム改革・タスク検討ワーキンググループを設置済み(執行役員会議、大学評議会報告)				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部		近藤	C	教育	学修成果の可視化システムの構築	現状は未構築である。	導入を目指して、個別の学修成果可視化システムの詳細を検討する。	2026年3月末	各システム会社と検討を加える。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	未構築	システム会社にカスタマイズ事項を伝えており、対応待ちの状況である。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部	FD・SD委員会	近藤	B	教育	授業評価アンケートシステム導入による回収率向上と授業内容の改善	現状値は満足度76.5% 回収率42.6%のため、改善を要する。	授業評価アンケート満足度90%/年 回収率100%/年	2026年3月末	・現状の回収率を向上させる。 ・現状の満足度を向上させる。 ・教育現場におけるDXの導入。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	全体平均39.5% ・体育学部、スポーツ科学部28.8% ・教育学部48.3%	昨年度と比べて、回収率は減少しており、目標には届かなかった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
情報処理センター/教育学部教務担当/学習支援室		堤	Z	教育	オンライン教育環境の整備 (教材作成用スタジオ)	特になし。 ※大学評議会にて、当面計画を凍結することが決定された(設置費用の高さと利用率見込みの低さが理由)				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

国際交流センター		曾根	B	教育	国際交流プログラムの充実	昨年度のプログラム数4件	プログラム数3件	2026年3月末	国際交流プログラムの活性化を行う。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	プログラム数7件	国際交流プログラム（4月上海体育大学の来訪、7月西安体育学院訪問、9月台湾国立体育大学来訪研究交流、9月国立台湾師範大学来訪研究交流、10月上海体育大学訪問、11月スペイン・ビトリア大学来訪、2月ニュージーランド・カンタベリー大学語学研修）を実施。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター		曾根	B	教育	留学生の受け入れ増大	学部：4名 大学院：7名 短期留学生（3ヶ月）：4名	30名/年	2026年3月末	大学院入試に関する海外からの問い合わせに対応する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	学部：6名 大学院：7名	国際交流センターでは留学生の受け入れに関するサポートを行なっている	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター		曾根	B	教育	グローバル人材の育成に向けた国際交流奨学金制度の構築	昨年度、シンガポール研修参加学生に対して上限10万円補助金支援	20名/年	2026年3月末	国際交流センター委員会にて審議し、執行役会・大学評議会へ提案する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	6名/年	CCEL研修に6名の学生が参加し、この学生たちにそれぞれ補助金10万円を支援した。目標には届かなかった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援部 ／教職支援センター		宮崎	A	教育	教員採用試験合格者数を増大	現役学生54名 既卒者109名 合計163名（3年生前倒し受験合格者27名）	150名/年	2026年3月末	教員採用試験の早期化および3年生前倒し受験に関する対策の充実させる。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	現役学生65名 既卒者85名 合計150名（3年生前倒し受験合格者47名）	教員採用試験合格者は、目標数値を上回ることができた。また3年生前倒し受験合格者は47名となり、昨年度より20名増となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援部		宮崎	A	教育	公務員(警察官、消防官等)就職者数を増大	109名	70名/年	2026年3月末	泉佐野警察との連携協定や防災士など消防に関わる資格取得を申請など、さらに受験に有利となり得る取り組みを実施する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	111名	昨年度警察、消防等公務員関係の見学会を5回行い、本年度は7回以上実施し、昨年度に近い合格者数に結びついている。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
ATコース/ スポーツ科学センター		梅林	B	教育	アスレティックトレーナー合格者数の増大	3名	5名/年	2026年3月末	ATコースとAT部門が協力し、サポート体制を強化する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	8名合格（うち既卒1名） ※理論合格者	ATコースとスポーツ科学センターAT部門が現場及び理論のサポートを充実させた結果、8名の合格者を出すことができた。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局 執行会	梅林	B	教育	UNIVASランキングの向上	24位	15位以上/年	2026年3月末	新たな運動クラブに対する予算の制度を検討する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	25位	2025年度より新たな運動クラブに対する強化予算の制度を策定・実施している。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	熊取キャンパス連携推進会議	梅林	B	教育	中高大(浪商学園)一貫アスリート育成システムを活用するクラブ数	3クラブ4名が利用	クラブ数/年	2026年3月末	新たな運動クラブに対する強化予算の制度を策定・実施した。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	1クラブ1名	1クラブ1名の利用にとどまった。活用が停滞している課題を解消するため2027年度入試より内部推薦の枠数として実施することとなった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局 執行会	梅林	B	教育	日本代表(世代別代表)として学生が合宿等に選出された数	40名/2024年	50名/年	2026年3月末	新たな運動クラブに対する強化予算の制度を策定・実施した。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	54名	2025年度より新たな運動クラブに対する強化予算の制度を策定・実施している。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
大学院事務室	大学院・研究教育委員会	近藤	A	教育	リカレントとリスキングの充実	83%/2024年	社会人大学院生44%⇒60%	2026年3月末	選定、公開方法について大学院入試委員会で検討し、研究科委員会での承認を得たうえで実施する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	前期課程 78.7% 後期課程 100% 大学院合計 83.3%	昼夜開講制、長期履修制度、スポーツ科学実践プログラムの継続及び広報強化 次年度入学予定者のうち社会人入学者の割合は前期課程24.0%、後期課程100%、大学院合格26.9%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

スポーツ局	スポーツ局 執行会	梅林	C	教育	世界で活躍できる DASHアスリートの獲得	9名/年	20名/年	2026年3月末	中期経営計画のコンセプト「学生が伸びる大学」に基づいたクラブ強化のしくみやDASHアスリートの育成制度を検討する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	13名	2025年度より新たな運動クラブに対する強化予算の制度を策定・実施している。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	運動部活動 改革プロジェクト	植木	B	教育	部活動指導者養成セミナーの充実	63名	申込人数100名/年	2026年3月末	運動部活動改革プロジェクトで検討したものを大学評議会で報告し推進する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	90名	正規のプログラムは30名(春17名、秋13名)の受講生にとどまった。一方で大分県が指導者講習会として本プログラムを採用。60名の受講があった。 なお、新たに次年度より地元熊取町から本プログラムを部活動指導員の研修に採用することとなった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部学生支援 担当		近藤	C	教育	学生食堂の充実と質的 向上	59.1%	学生生活実態調査「学生食堂利用状況」向上 80%	2026年3月末	食堂の充実で学生の総合的な満足度へ寄与する。学生のニーズを把握し、学生生活の向上に向けて活用していく。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	64.1%	昨年度から、利用状況は改善したが、引き続き食堂の改善に向けた取り組みを進める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部学生支援 担当		近藤	C	教育	学内イベント(大学祭 等)の質的向上	33.7%	学生生活実態調査「大学祭参加状況」向上 50%	2026年3月末	学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取り組みを行った。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	31.6%	昨年度から、参加状況が減少しており、引き続き大学祭の改善に向けた取り組みを進める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援部		宮崎	C	教育	キャリア支援の充実	32.5%	学生生活実態調査「キャリア支援センター利用状況」向上 50%	2026年3月末	必修科目「キャリアデザインⅠ」の授業時に2年次早期でのキャリアの意識付けの徹底とキャリア支援センターの利用方法について案内し、意識を促していく。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	32.1%	昨年度から、参加状況が減少しており、引き続き早期からのキャリア意識を持たせるための取り組みを進める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部学生支援 担当		近藤	B	教育	学生生活の総合的な満足度 向上	76.5%	学生生活実態調査「満足度」向上 80%	2026年3月末	学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取り組みを行った。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	77.6%	昨年度から、満足度が向上したが、わずかに目標に届かなかった。引き続き学生が感じている不満内容の改善に向けた取り組みを進める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
DS論TF		三島	Z	教育	ラーニング commons× デジタルスポーツスク エアの整備	整備完了				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部教務担当		近藤	C	教育	学生が実際に執筆した 論文や発表を行った際 の動画などを学外公開	0件	公開する高い水準の学修成果の数 2027年までに30件	2026年3月末	選定、公開方法についてカリキュラム委員会、教務委員会で検討し、教授会で承認を得たうえで実施する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	0件	各学部の当該委員会では他大学(愛媛大学)の取り組みを参考に検討を進めている段階にあり、現状成果は未達である。	未着手	未着手の状況であるため、改善に向けた検討を進めることが求められる。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援 担当		瀧	A	研究	科研費の採択件数の向 上	代表：16件(新規7件) 分担：23件(新規2件) 合計：39件	30件以上/年	2026年3月末	代表課題の件数増を目指すべく、申請者向け支援制度等の充実を図り、外部資金獲得へのシフトに向けた施策を立案・推進する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	代表：14件(新規4件) 分担：16件(新規4件) 合計：30件	課題件数となり、目標を達成した。本学代表課題に係る学内分担者の数が増加しており、科研費を起点とした学内連携推進、若手研究者の参画なども見て取れた。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

庶務部研究支援担当		瀧	A	研究	「地域中核・特色ある研究大学の振興」連携機関として参画	1件/年	1件/年	2026年3月末	「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を起点として創出される新たな研究プロジェクトをベースに、企業との連携も含めた人材の受入も併い、新たな事業・助成金の獲得をめざす。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	2件	立命館大学との連携事業では、拠点内の各部会等を通して参画機関同士の今後の連携について議論を開始した。 新たにスポーツ科学センターと追手門学院大学との共同研究を実施した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	B	研究	自治体・企業・公益法人等の受託事業収入の増大	699万円/2024年	1,500万円/年	2026年3月末	研究成果・内容の発信やSPORTECの出展機会等も活用しながら、外部との接続機会を増やし、新規事業の採択につなげる。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	2,200万円	立命館大学との連携事業の金額が大きくなっているほか、近隣自治体から新規事業の委託があり、金額としては目標を上回った。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	A	研究	研究エフォートの適切な管理	31%/2024年	研究計画書「研究エフォート欄」平均30%/年	2026年3月末	数値上目標は達成しているが、パイアウトをはじめ各種支援制度の策定等により研究時間のさらなる確保につなげる。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	28.5%	昨年度から、減少となり、わずかに目標に届かなかった。引き続き研究時間の確保に向けて取り組みを進める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	B	研究	在外研究の積極的活用	0名/2024年	1名/年 ※規程上1名上限	2026年3月末	学部研究委員会を起点に課題を抽出し、規程の変更も含む、新たな制度活用促進策を立案する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	0名	今年度は0名となったが、来年度は、在外研究員として、1名を派遣する予定である。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局		梅林	B	社会貢献	トップスポーツクラブの多種目スポーツクラブ化への協力	1クラブ	クラブ数を4クラブ	2026年3月末	法人事務局と情報を共有し、適宜必要な協力を実施する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	2クラブ	バレー部、ハンドボール部が協力。バレー部は通年のイベントを実施した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局執行会	梅林	B	社会貢献	大学のスポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業	2023年度採択	スポンサー獲得による自走化	2026年3月末	セールシートを作成し企業へ営業を実施する	対応の適切性を確認し、委員会において承認	12月5日(金)にマッチスポンサー・株式会社エイブルのフレンドリーマッチを実施。	観客動員数452名。自走しかつイベントとして定着した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試部		古家	B	社会貢献	高等学校への出前講座の充実	7件/2024年 12件/2023年 5件/2022年	15件/年	2026年3月末	教員との連携を密にし、高校からの要望に対応する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	10件	件数も倍増(前年5件⇒10件)したが重点校等のポイントを踏まえ、回数ではなく内容に拘った実施を行った。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター		富山	B	社会貢献	高等学校の「総合的探究の時間」への支援充実	2件/2024年	3件/年	2026年3月末	外部からの依頼に対し、学内で対応できる教員に打診する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	2件/2025年度 ※咲くやこの花高校、岡豊高校(高知県)	学生募集の観点から早期段階で生徒・教員と接点を持つことにより、学校との協働体制を発展させていけるように引き続き取り組みたい。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試部		古家	B	社会貢献	大学訪問への対応	17件/2024年 11件/2023年 13件/2022年	20件/年	2026年3月末	高校訪問時に大学訪問受け入れのフライヤーを配布し認知を深める	対応の適切性を確認し、委員会において承認	20件	業者経由だけでなく、高校からの直接の依頼が増加しており、高校との関係性が強くなってきていると手応えを感じている(前年17件⇒20件)。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
全部局 (庶務部学長室担当⇒広報室)		大坪	A	社会貢献	スポーツSDGsの推進	153件(可視化されたもののみ)	10件/年	2026年3月末	大学内で完結させず、様々なステークホルダーと協力しながらスポーツSDGsの推進を図る	対応の適切性を確認し、委員会において承認	187件 累計:340件	ミラノ五輪閉幕 追悼ヘルメット着用のウクライナ選手失格の是非について、多くのアクセスを記録し、社会にインパクトを与えた。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

社会貢献センター		富山	A	社会貢献	学生ボランティアの活動促進(子ども運動教室、泉大津市子ども体力向上事業)	14件	14件/年	2026年3月末	外部からの依頼に対し学内メールで学生に周知し、希望者を募る。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	6件/2025年度 子ども運動教室、キッズボースターズ、泉大津市スポーツマスターズ、体実名寄市での支援活動、岸和田「子ども体操教室」「Gボール教室」	学内での授業、クラブ活動以外で学生の活躍の場を提供した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教職支援センター		中山	A	社会貢献	グッドコーチの部活動紹介	29名	20名/年	2026年3月末	グッドコーチ(大阪体育大学学生)の地域部活動への紹介を行う	対応の適切性を確認し、委員会において承認	44名 ※登録学生数	去年を上回る人数の登録者数となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター(スポーツ局)		富山	C	社会貢献	外部機関・近隣地域/自治体/公益財団法人との連携強化	19件	15件/年	2026年3月末	連携協定を結んでいる各団体との事業を実施する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	5件/2025年度 熊取町、泉大津市教育委員会、高知県、Nスポーツコミッション、ライフスポーツ財団	計画を下回る件数の事業数であったため、引き続き取り組みたい。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター		富山	C	社会貢献	小学校・中学校の教員研修支援事業数	17件(研究協力1件含む)	30件/年	2026年3月末	ホームページでの告知およびパンフレットの郵送によって小中学校等から募集し、教育学部教員を派遣する。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	64件/年	学校現場との接点を持ち、高校・自治体からの信頼関係を築いていくように引き続き取り組みたい。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	C	組織・運営	職員の各種委員会への配置	委員の比率25%	委員の比率30%	2026年3月末	見直しにより職員の委員会構成比率は上がったが、構成比30%に向けて継続した検討を行う。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	25%	教職協働を推進するため、職員の各種委員会への配置を含めた委員会の見直し等を行った。これにより2025年度からの構成比は19.1%から25%となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試部		古家	A	組織・運営	実志願者数の増大	1133名/2024年 894名/2022年	1,000人/年	2026年3月末	アナログ戦略とデジタル戦略を基軸に募集活動の充実を図る。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	1026名/2025年	今年度も前年度に引き続き、高校生との接触機会増のため、各地での進学相談会(前年23会場→35会場)や校内ガイダンス(前年283回→385回)、高校訪問(前年427校→610校)に取り組み、スポーツ科学部、教育学部ともに募集定員以上の入学者数を確保した。志願者数も、目標とする1,000名は達成できた。CM戦略を2年ぶりに実施し、一定のブランドイメージ向上には繋がったと考える。前年より実施している大学OBによる広報アンバサダー活動は、新たに滋賀県と広島県に展開し、より多くの高校との接点に繋がった感じている。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	B	組織・運営	大学等改革総合支援事業タイプ3+タイプ1獲得	タイプ3:採択 タイプ1:不採択	2タイプ採択/年	2026年3月末	タイプ1の対策を進めつつ、他タイプや他の補助金獲得に向けた設問対応も進める。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	タイプ3:採択 タイプ1:不採択	タイプ3については継続して採択となったが、タイプ1については引き続き学内での取組推進には至らず、不採択となった。また別タイプの申請に向けた具体的な検討には至らなかった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

庶務部学長室担当		木谷	B	組織・運営	文部科学省により定められた教育の質に係る客観的指標の向上	「+4%」/2024年 「+1%」/2023年 「-2%」/2022年	「+6%」/年	2026年3月末	教育の質に係る客観的指標は、私立大学等経常費補助金（一般補助）に影響を及ぼすことから「+6%」を目指す。現在の得点状況と要件整理から加点や改善に向けた取組を行う。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	+ 5 %	目標値には届かなかったが、学長室を中心とした推進により要件対応を進め、前年度+4%から「+5%」という結果となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	Z	組織・運営	2025年度に記念式典・祝賀会の開催、記念誌の発行	未着手	成功裏に完遂	2026年3月末	当初計画していた式典等の開催および記念誌の発行については、諸般の事情を踏まえ、現時点では実施を見送ることとした。今後の状況等を考慮しつつ、計画内容の見直しを図る予定である。	委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	Z	組織・運営	60周年記念として施設の改修や教育施設環境の整備(外観美化、補修等)	未着手	改修着手	2026年3月末	当初計画していた式典等の開催および記念誌の発行については、諸般の事情を踏まえ、現時点では実施を見送ることとした。今後の状況等を考慮しつつ、計画内容の見直しを図る予定である。	委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・ブランディング委員会	大坪	B	組織・運営	HPを用いた広報活動の充実	723328件/2024年 618,005件/2023年 698,628件/2022年 775,684件/2021年	アクセス数800,000件/年	2026年3月末	本学の強み10項目をトップページで重点的に打ち出すほか、インスタグラムに力を入れる。SNS広告によるHP流入も図っている。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	697,030件/2025年 ※スポーツナビ閲覧数 1,610,717回/2025年 1,467,325/2024年	積極的なお知らせ発信により、HPの訪問者増をめざした。特にスポーツナビに掲載することでの閲覧数アップを目指し、大幅な閲覧数となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・ブランディング委員会	大坪	B	組織・運営	メディア掲載数の増大	64件/2024年 88件/2023年 75件/2022年	100件/年	2026年3月末	記者との私的な付き合いも含めて信頼関係の醸成に努めている。また、後述のヤフー記事の充実により、ヤフー記事を見て取材に訪れる記者が増える効果も生まれている。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	25件/2025年	積極的なプレスリリースに努めた。数字が伸びなかった背景には、メディアに頼らず、本学自らスポーツナビに積極投稿した影響も考えられる。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・ブランディング委員会	大坪	A	組織・運営	ニュース発信数の増大	436件/2024年 364件/2023年 351件/2022年	400件/年	2026年3月末	2023年12月にヤフー・スポーツナビへの記事配信を始め、同社から全国の大学でトップの活用度であると評価されている。2025年度から新たに動画のスポナビ配信も始め、引き続き広報室の最重点項目として取り組む（閲覧数などは部外秘のため後悔しない）	対応の適切性を確認し、委員会において承認	534本/2025年	スポーツナビを通じて他学をはるかに上回る積極的な出稿に努めた	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

広報室	広報・ブランディング委員会	大坪	B	組織・運営	プレスリリースの増大	20件/2024年 20件/2023年 20件/2022年	40件/年	2026年3月末	従来はリリースしなかった内容のニュースでも積極的にリリースしている。またリリース先も記者クラブのみではなく、これまでに取材で知り合った個人的な記者に拡大している。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	17件/2025年	引き続き意欲的な出稿に努めたが、件数減となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	B	組織・運営	第3期認証評価結果・第4期認証評価基準への対応	対応中	2026年までに対応	2026年3月末	自己点検・評価報告書の作成に続き、内部質保証システムの見直しも継続して行っている。今年度も指摘事項等を踏まえて改善を図る。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	第4期認証評価基準に対応した内部質保証シートの見直しを行った。	PDCAサイクルの確立に向けて、更なる見直しを行う。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	B	組織・運営	SD・FD研修の充実	FD：5件 参加81.8% SD：4件 参加率51.1% FD・SD：2件 合計11件	5件/年参加率100%	2026年3月末	FD/SD研修の取り組みを継続し、年間5件以上の実施及び参加率100%を目指す。引き続き庶務部、教学部、スポーツ局、社会貢献センター等の各部局及び組織風土改革PJなどの研修実施主体が連携して、件数及び参加率の向上を図る。	対応の適切性を確認し、委員会において承認	<件数> FD：2件 SD：8件 FD・SD：2件 合計12件 <参加率> FD 78.7 % SD 77.2 % ※集計期間は「教育の質に係る客観的指標」と同様に2024年10月1日～2025年10月1日	SD・FD研修の充実や参加率向上に向けて、SD・FD研修の運営に積極的に関与した。年間件数について、前年度9件から12件となり、目標を上回る結果となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	Z	組織・運営	危機管理体制の再構築	委員会等の設置	関連規程等の見直し/2023年	2024年3月末	引き続き啓蒙活動を行う。	委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		木谷	Z	組織・運営	危機に関する情報提供体制の構築	メール等での提供	ポスター、展示、啓発の機会 各1回/年	2025年3月末	啓発活動のため、ポスターや調査などを実施する。	委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。